

目指す「生涯学習都市いるま」のビジョン

入間市では、市民一人ひとりがそれぞれのライフスタイルの中で、充実した生き方ができるまちづくりを目指しています。充実した生き方を望むことは、人として当然のことであり、すべての市民が社会の中で心豊かに生命力ある生き方をしたいと願っています。

生涯学習社会とは、だれもが、いつでも、どこでも学ぶことができる社会であり、学習の主体は学び手自身、つまり市民自身です。市民の学習要求は多様であり、職業や生活課題に即したものから趣味教養的なものまで様々であり、まさに十人十色です。この十人十色の各色が地域の必要課題に重なり合い、渾然一体となったり、新色の登場や深みのある色合いが生まれたりするのです。

入間市は、加治丘陵や入間川を始めとする自然環境に恵まれた緑と水の美しいまちです。しかし、入間市にも都市化の波が押し寄せ、生産構造が変化し、コミュニティとしての機能も失われつつあります。また、地球の裏側の国の情報が瞬時に伝わる情報社会の中で、効率の良い暮らしを願う一方、市民は希薄な人間関係から脱却し、より濃密な新たなコミュニティの創造を求めています。

入間市が目指す「生涯学習都市いるま」は、市民が主体的な学びを通してまちを愛し、人を愛し、そして何よりも自分を愛し、磨いていくことができ、かつ、学んだことが実践活動に生かされ適切に評価される社会であり、そのビジョンは次のとおりです。

1 主体的な学びと活発な市民活動のあるまち

市民は毎日の生活の中で様々な課題を抱えながらも、自ら課題解決のための学習活動を活発に展開し、心の豊かさや社会の変化に対応するための多様な学習活動に取り組みます。

また、市民は学んだことを単に自分自身だけの知識としてとどめて置くのではなく、家庭生活や地域社会などにおける実践活動へと結びつけていきます。学びと実践活動が常に一体的かつ継続的に循環する形で展開され、これが市民の生きがいや自己実現につながっていくのです。

目指すまちは、だれでも、いつでも、どこでも学ぶことができ、学んだことを地域の中で生かすことのできるまちです。

2 コミュニティーが充実し、心が通い合うまち

都市化の進展、人口の流動化、地域行事の減少などにより、本来地域社会が持っていた問題解決力が低下しつつある中で、市民は新たなコミュニティを創造するための学習活動を展開していきます。

また、市民は文化活動やスポーツ活動等を通じた様々な出会いや交流の機会を積極的に作り出していくことによって、互いに理解し合い、心を通い合わせることでできるまちづくりをすすめます。

目指すまちは、様々な生活課題や地域の課題を共に学び合う多様な機会があり、お互いの立場や考え方を理解し、受け止め合って生きていくことができるまちです。

3 市民と行政が協働するまち

「公平性」を基本原理とした従来型の行政サービスの提供だけでは、すべての市民の課題解決につながっていかないという現状の中で、市民は、行政依存型の生活から脱却し、市民活動やボランティア活動等を通じて積極的にまちづくりに参画し、主体的に活動することによって問題を解決していきます。中でもNPOは、専門性や柔軟性を生かした学習機会の提供者として、また、市民ニーズを的確に反映することのできる「新しい公共サービスの担い手」として活躍していきます。行政は、こうした市民の力が多様な形でまちづくりのなかで生かされるシステムづくりをすすめます。

目指すまちは、市民と行政の役割が明確であり、実践活動を通じてパートナーシップを高め合い、それぞれが力を出し合いながら協働していくことのできるまちです。